

令和２年度 資源・漁獲情報ネットワーク構築事業 報告書

大課題名：沿岸資源情報ネットワークⅠ

海域名(中課題名)：東北太平洋沿岸海域

小課題 1：水揚げ情報収集

【参画機関】

水産研究・教育機構 水産資源研究所

【対象魚種】

東北海域で漁獲される全漁獲対象種

【対象漁業】

東北海域で操業する全漁業種

【実施計画】

小課題 1: 水揚げ情報収集

東北太平洋沿岸の各県において、水揚げ情報の種類やその有無について調査を行う。また、水揚げ情報提供の可能性について調査を行う。

【今年度の成果】

- ・岩手県水産技術センターにて聞き取り調査を実施し、岩手県における水揚げ情報収集の仕組みについて情報収集を行った。
- ・茨城県水産試験場にて聞き取り調査を実施し、茨城県における水揚げ情報収集の仕組みについて情報収集を行った。

【事業期間全体の成果】

- ・青森県の沖合底びき網船および宮城県と茨城県の小型底びき網船の計 3 隻の漁網に、水温水深計を装着し、操業ごとの水温・水深情報を取得した。
- ・水温水深計を装着した漁船の漁業者に、タブレット型端末を用いた主要魚種の漁獲情報入力を依頼し、操業ごとに魚種別漁獲量情報を取得した。・水温水深計を装着した漁船に自動転送型 GPS 等ロガーシステムを搭載し、遠隔地の水産研究・教育機構 底魚第 2 グループ（八戸）および漁業情報解析部（横浜）において、操業ごとの魚種別漁獲量、緯度経度、環境情報（水深・水温）を収集した。

- ・水温水深計を装着した漁船の漁業者から情報収集を行い、操業情報入手にあたってのメリットと普及に向けた問題点を整理した。
- ・岩手県水産技術センターにて聞き取り調査を実施し、岩手県における水揚げ情報収集の仕組みについて情報収集を行った。
- ・茨城県水産試験場にて聞き取り調査を実施し、茨城県における水揚げ情報収集の仕組みについて情報収集を行った。

【実施概要】

小課題 1: 水揚げ情報収集

- ・岩手県水産技術センターにて、岩手県水産技術センター職員 3 名、岩手県庁行政担当者 1 名および水産研究・教育機構担当者 2 名を交えた聞き取り調査を実施した。岩手県では県独自の漁獲情報収集システム（いわて大漁ナビ）を構築・運用しており、県内 13 市場のデータをオンライン集約されている。漁獲情報の様式は市場ごとに異なるものの、それらの様式は県システム内で成形・統一されており、資源評価等のためのデータ作成作業は県システムからのデータ抽出のみで完了することが分かった。
- ・茨城県水産試験場にて、茨城県水産試験場職員 2 名、茨城県庁行政担当者 1 名および水産研究・教育機構担当者 4 名を交えた聞き取り調査を実施した。茨城県では漁獲情報収集のために漁協に配備したシステムと漁獲データ管理のためのシステムを包括したシステム（漁獲管理（TAC）情報処理システム）を構築・運用しており、県内 11 漁協の市場のデータがオンライン集約されている。漁獲情報の様式は各漁協で統一様式が使用されており、資源評価等のためのデータ作成作業は茨城水試担当者によるシステムからのデータ抽出のみで完了することが分かった。
- ・青森県、岩手県、宮城県、福島県および茨城県から水産研究・教育機構に送付されている資源評価用の漁獲情報の種類について整理を行った（表 1）。

【図表】

表 1. 東北太平洋沿岸各県より水産研究・教育機構に送付される資源評価対象種の漁獲情報種類

	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県
ズワイガニ	D, F	B	B, H	B, H	B
イトヒキダラ		B	B, H		
マダラ	D, F	B	B, F	C	B
キアンコウ	D, F	B	D, E, H	C	B
キチジ	D, F	B	B, E, H	C	B
ヒラメ	D, F	B	B, H	C	B
サメガレイ	D, F	B	B, H	C	B
ヤナギムシガレイ	D, F	B	B, H	C	B
ヤリイカ	D, F	B	B, E	C	B
アイナメ	A		D, E, H	A, E, G	B, E, G
アオメエソ		B	D, E, H	A, E, G	B
アカガレイ	A	B	D, E, H	A, E, G	B, E, G
イカナゴ	A		D, E, H	A, E, G	B, E, G
イシガレイ	A		D, E, H	A, E, G	B, E, G
イシカワシラウオ	A			A, E, G	B, E, G
イラコアナゴ	A	B	D, E, H	A, E, G	
エゾイソアイナメ	A	B	D, E, H	A, E, G	B, E, G
ケガニ	A	B	D, E, H	A, E, G	B, E, G
ケンサキイカ			D, E, H	A, E, G	
サワラ	A			A, E, G	B, E, G
シロメバル(メバル類)	A		D, E, H	A, E, G	B, E, G
ジンドウイカ	A	B	D, E, H	A, E, G	B, E, G
スズキ	A	B	D, E, H	A, E, G	B, E, G
タチウオ	A		D, E, H	A, E, G	B
ツノナシオキアミ				A, E, G	B, E, G
ババガレイ	A	B	D, E, H	A, E, G	B, E, G
ホシガレイ	A	B	D, E, H	A, E, G	
マアナゴ	A			A, E, G	B, E, G
マガレイ	A			A, E, G	B, E, G
マコガレイ	A			A, E, G	B, E, G
マダコ	A	B	D, E, H	A, E, G	B, E, G
ミギガレイ	A	B	D, E, H	A, E, G	
ミズダコ	A	B		A, E, G	B, E, G
ヤナギダコ	A	B		A, E, G	B, E, G
サヨリ	A	B	D, E, H	A, E, G	B, E, G

A: 年別漁獲量（漁法別），B: 月別漁獲量（市場別漁法別），C: 月別漁獲量（漁法別），
D: 日別漁獲量（市場別漁法別），E: 努力量，F: 銘柄(規格)情報，G: 資源量指標値，
H: 魚価，空欄は水産研究・教育機構への漁獲情報送付が無いことを示す

【実施に当たっての問題点】

- ・新型コロナウイルスの影響による調査実施の遅延が生じた。

【資源調査評価事業に受け渡す事項】

- ・令和元年度までの実施内容について、令和２年度より資源調査評価事業に受け渡し済み。
- ・令和２年度実施内容については資源調査評価事業に受け渡す事項は無し。

【成果の発表】**(学会発表)**

- ・時岡 駿, 木所英昭, 成松庸二, 柴田泰宙, 山崎幸夫, 飯田隼人, (2021) ヤリイカの性別および繁殖戦術による繁殖期の分布特性の差異, 令和３年度日本水産学会春季大会, 令和３年度３月(予定), オンライン開催